

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年3月5日（金）
- 2 確認箇所
(1) Dタンクエリア
(2) 旧処理水バッファタンク
- 3 確認項目
(1) Dタンクエリアに設置されているタンクの位置ずれの状況
(2) 旧処理水バッファタンクの状況（物揚場排水路の高警報事象関連調査）

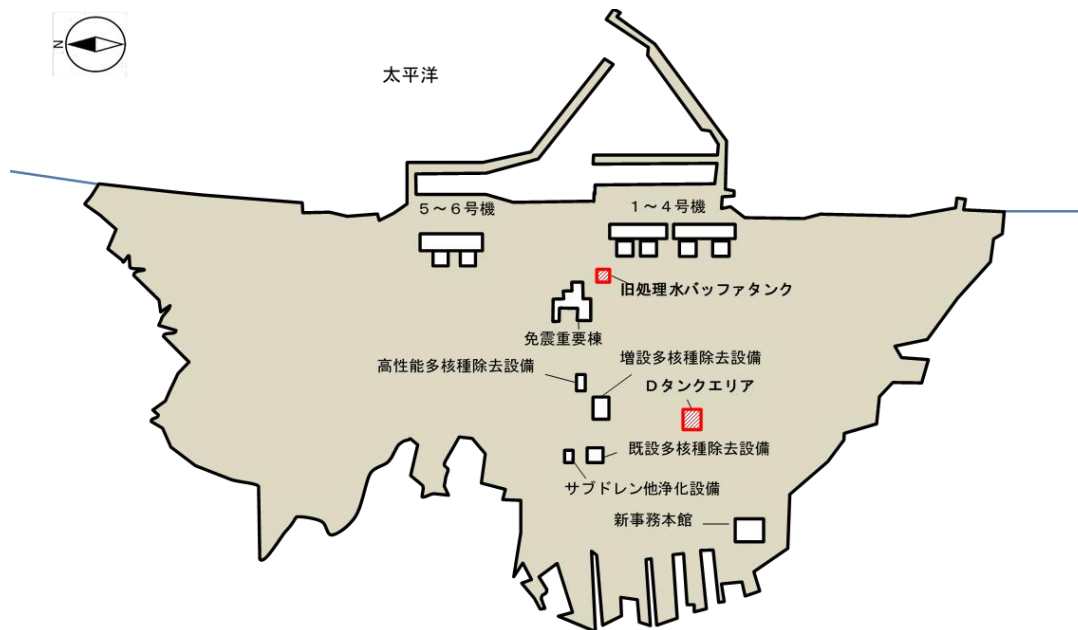
4 確認結果の概要

(1) Dタンクエリアに設置されているタンクの位置ずれの状況

令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震（立地町震度6弱）により、一部のタンクに位置ずれが発生したことの報告が東京電力よりあったことから、前回（2月25日）に引き続き、Dタンクエリアに設置されているタンク※の状況を確認した。（図1、写真1）

- ・当該タンクエリアには、タンク容量が1000m³の溶接型タンクが41基設置されており、RO処理水、Sr処理水及び濃縮廃液が保管されている。本日はタンクの位置ずれに伴い発生したタンクとタンクをつなぐ連結管の位置ずれ等を確認した。（写真2）
- ・偏心、伸び、縮みが最も大きい連結管をそれぞれ確認したが、いずれの連結管からも水漏れは確認されなかった。
- ・東京電力によると、変位量がメーカ推奨量を超過する連結管を8箇所確認したとのこと。
- ・なお、メーカ推奨変位量は安定的に機能を発揮できる範囲の目安であり、その変位量を超えても直ちに破断・破損は生じるものではないとのこと。
- ・また、位置ずれが確認された連結管について、準備が整い次第交換を進めていくとのこと。
- ・前回Dタンクエリア内の複数箇所で雨樋が破損していることを確認したが、修理は未だ行われておらず、前回同様、近傍には注意書きと共に近日修理予定と表示されていた。（写真3）

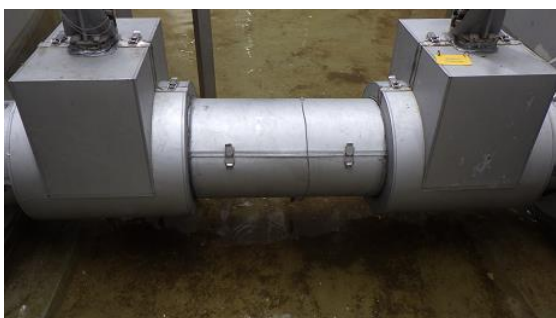
※ 当該タンクなど比較的大型のタンクについては、耐震性確保の観点から、基礎に固定せず、平置きして一定以上の力が加わった際に動くことにより転倒や損傷を防ぐように設計されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



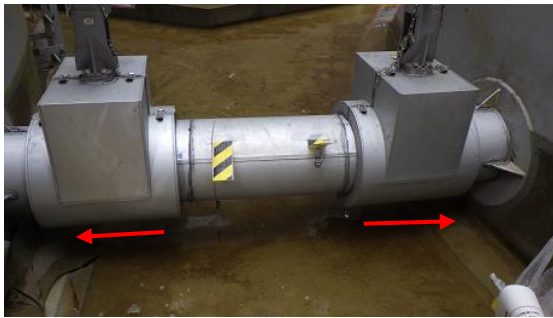
(写真1)
Dタンクエリア外観
(南側から撮影)



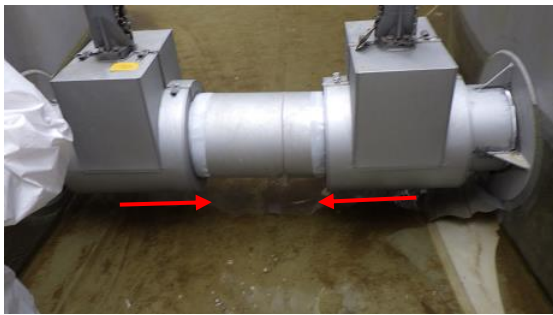
(写真2-1)
位置ずれが比較的少ない連結管



(写真 2 - 2)
位置ずれ (偏心) が最も大きい連結管



(写真 2 - 3)
位置ずれ (伸び) が最も大きい連結管



(写真 2 - 4)
位置ずれ (縮み) が最も大きい連結管



(写真 3 - 1)
雨樋破損状況の一例



(写真3-2)

雨樋破損に係る注意書き

(2) 旧処理水バッファタンクの状況（物揚場排水路の高警報事象関連調査）

3月2日、18時18分に物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下、「PSFモニタ」という。）において「高警報」が発生した事象を受け当該排水路の上流側に設置されている旧処理水バッファタンク及びその周辺の状況を確認した。なお、本事象を受けて3月3日にPSFモニタ設置箇所付近の状況を確認している。（図1、写真4）

- ・タンク周囲の堰内に雨水が溜まっていたが、堰外への漏えいは見られなかった。（写真5）
- ・堰内の水を抜くための配管の弁は閉じられていた。また、堰外への雨水の漏えいは見られなかった。（写真6）
- ・雨水の流れる側溝までの経路を含め地表面付近の線量率を測定したが、周辺と比較して特別高い箇所は確認されなかった。（写真7）

※ 旧処理水バッファタンク

原子炉に注水する処理水を一時的に貯留するためのタンクとして過去に使われていた。フランジ型構造であり、漏えいリスクを有していることから、溶接型構造のタンクが新たに設置され、運用の切り替えが完了している。現在処理水は貯留されていない。

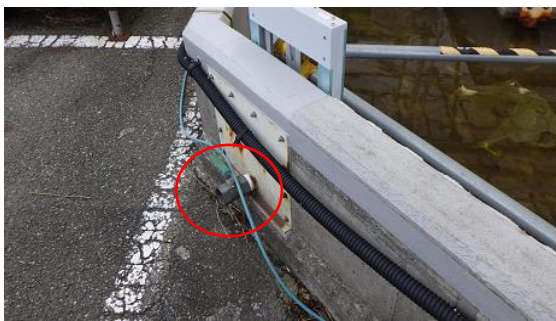


(写真4)

旧処理水バッファタンクの外観
(北西側から撮影)



(写真5)
旧処理水バッファタンク堰内の状況



(写真6)
堰内の水を抜くための配管の弁



(写真7)
堰外近くの側溝
この先で物揚場排水路に合流している

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。